

基本理念

価値を高める観光で函館を照らす ～もう一回、もう一泊、もう〇〇～

※第3回委員会資料より抜粋

「函館観光のあるべき姿」

観光業を活性化させる。その効果は他産業にも経済効果を及ぼすとともに、市民生活を豊かにする。

① 観光産業の活性化

- ①-1 **観光事業者の売上増加**
観光入込客数の増加
観光消費金額の増加
平均宿泊日数の増加
- ①-2 **季節による繁閑差の是正**
1年を通じた観光需要の平準化
観光事業者の経営安定化
閑散期のコンテンツ造成
- ①-3 **観光業の雇用機会の確保**
地元学生の観光業界への就職

② 他産業への経済効果の波及

- ②-1 **地域循環による効果**
域内事業者への発注増加
域内消費の歩留の向上
- ②-2 **観光客への販売機会**
観光をハブとした販売機会の増加
- ②-3 **観光産業を自分事として**
地域循環や観光客への販売機会の増加から、函館観光の重要性を認識

③ 豊かな市民生活

- ③-1 **地域循環による恩恵**
雇用機会の増加
観光消費を財源に都市機能を整備
- ③-2 **市民理解の向上**
地域循環や経済効果の啓発
観光産業の重要性の認識
観光は函館に不可欠だという理解
- ③-3 **函館を誇りに思う**
観光地としての函館を誇りに思う
「函館愛」の醸成

あるべき姿

観光業を活性化させる。その効果は他産業にも経済効果を及ぼすとともに、市民生活を豊かにする。

基本理念

価値を高める観光で函館を照らす

～もう一回、もう一泊、もう〇〇～

基本方針

① 質の高い観光により観光消費額を向上させる

② 観光の繁閑差を是正する

③ 函館観光を盛り上げる人を増やす

目標値

観光消費総額の増加

2046.3億円 ▶ 2336.1億円

下半期（10～3月）入込客数の増加

193万人 ▶ 210万人

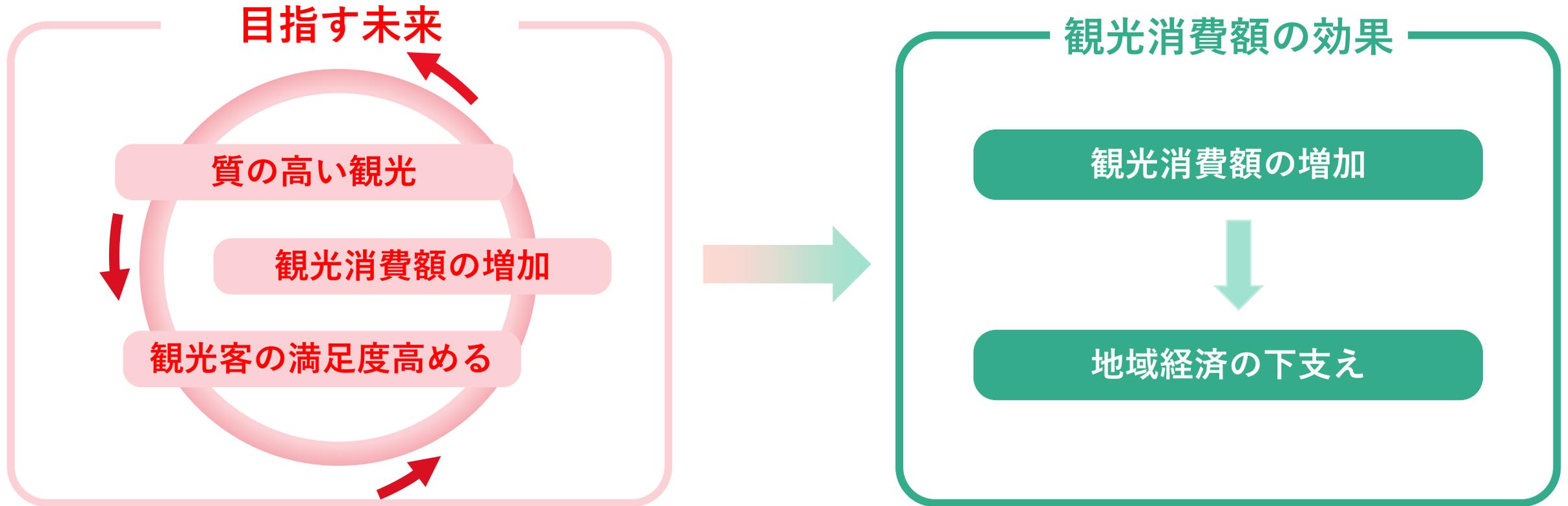
市民の函館観光への参加意欲度

※ 基本方針④については、定量的な評価や目標値設定が困難なため、この資料では割愛している。

方針 1、方針 2 の目標値の考え方

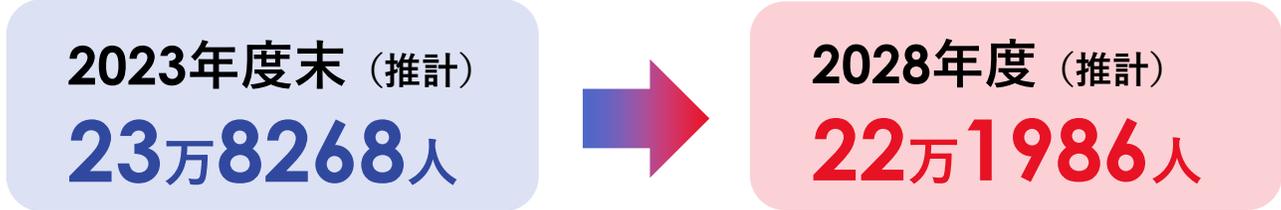
- ① 質の高い観光により観光消費額を向上させる
- ② 観光の繁閑差を是正する
- ③ 函館観光を盛り上げる人を増やす

質の高い観光を提供し，満足度を高めることを目指すことで，観光消費額が増加し，地域経済の下支えとなる。



	人	億円
	定住人口 (年度末)	消費額 減少
2017年度	259,284	
2018年度	255,766	
2019年度	252,198	
2020年度	248,901	
2021年度	245,274	
2022年度	241,126	
2023年度	238,268	
2024年度	235,444	-50.3
2025年度	232,653	-99.9
2026年度	229,042	-164.2
2027年度	225,486	-227.5
2028年度	221,986	-289.8
2029年度	218,540	-351.2
2030年度	215,148	-411.5

函館市の人口



人口減少数

▲1万6282人 × 178万円 =

函館市民

1人当たり消費額

函館市の平均所得に消費性向を乗じて試算
「市町村税課税状況等の調」「統計でみる都道府県のすがた」

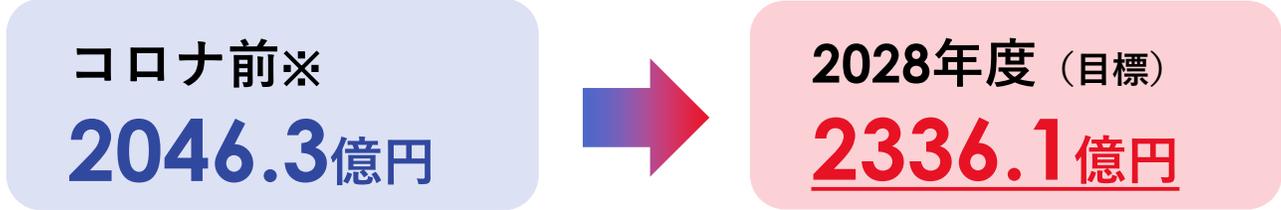
▲289.8億円

訪日外国人なら 47万8710人
国内宿泊客なら 58万2814人
国内日帰客なら 178万5350人

分の観光消費額に相当

※函館市観光動向調査(2019)の1人当たり平均消費額より試算

観光消費総額



観光消費額で補う

※ 定住人口の2022年度までは、各年度末の住民基本台帳人口。
 ※ 2025・2030年度は国立社会保障・人口問題研究所による推計(2018)。中間年は、人口減少率を一定と仮定して補完した。
 ※ 市民1人あたり消費額は、市町村税課税状況等の調(2022)より函館市民の平均所得を算出し、それに消費性向(所得のうち消費に回す割合)を乗じて算出した。
 ※ 「コロナ前」の観光消費総額は、函館市観光動向調査(2019)による観光消費単価と、北海道観光入込客数調査報告書による2017~2019年度の平均入込客数を、「国内日帰客」「国内宿泊客」「訪日外国人」の3分類ごとに掛け合わせ、合計したものの。

最終的には**観光消費総額の増加**を目指す、この数値を目標値としても個々の事業者には**実感が湧きづらい**ため、わかりやすい表現を検討



観光消費総額		入込客数		観光消費額 (一人当たり)	
国内日帰客	310.3億円	国内日帰客	191万人	国内日帰客	16,233円/人
国内宿泊客	1429.0億円	国内宿泊客	287万人	国内宿泊客	49,727円/人
外国人宿泊客	307.0億円	外国人宿泊客	51万人	外国人宿泊客	60,541円/人
合計	2046.3億円	合計	529万人	加重平均	38,665円/人

※ 「入込客数」は北海道観光入込客数調査報告書による2017~2019年度の入込客数の平均。
※ 「消費単価」は函館市観光動向調査(2019)より抜粋。

- 観光消費額の母数となる**入込客数を設定**し、入込客数増加に伴う観光消費総額の上昇で目標に届かない分を、**観光消費額**で補う。
- ピークである夏期の入込をこれ以上増やすことは現実的ではないため、**閑散期である下半期の入込を増やす**

観光消費総額

国内日帰客	310.3億円
国内宿泊客	1429.0億円
外国人宿泊客	307.0億円
合計	2046.3億円

入込客数

国内日帰客	191万人
国内宿泊客	287万人
外国人宿泊客	51万人
合計	529万人

観光消費額 (一人当たり)

国内日帰客	16,233円/人
国内宿泊客	49,727円/人
外国人宿泊客	60,541円/人
加重平均	38,665円/人

観光消費総額を向上させる

2046.3 億円 ▶ **2336.1 億円**

289.8 億円増

繁閑差を是正する

529 万人 ▶ **? 万人**

観光の質を高める

38,665 円 ▶ **? 円/人**

=

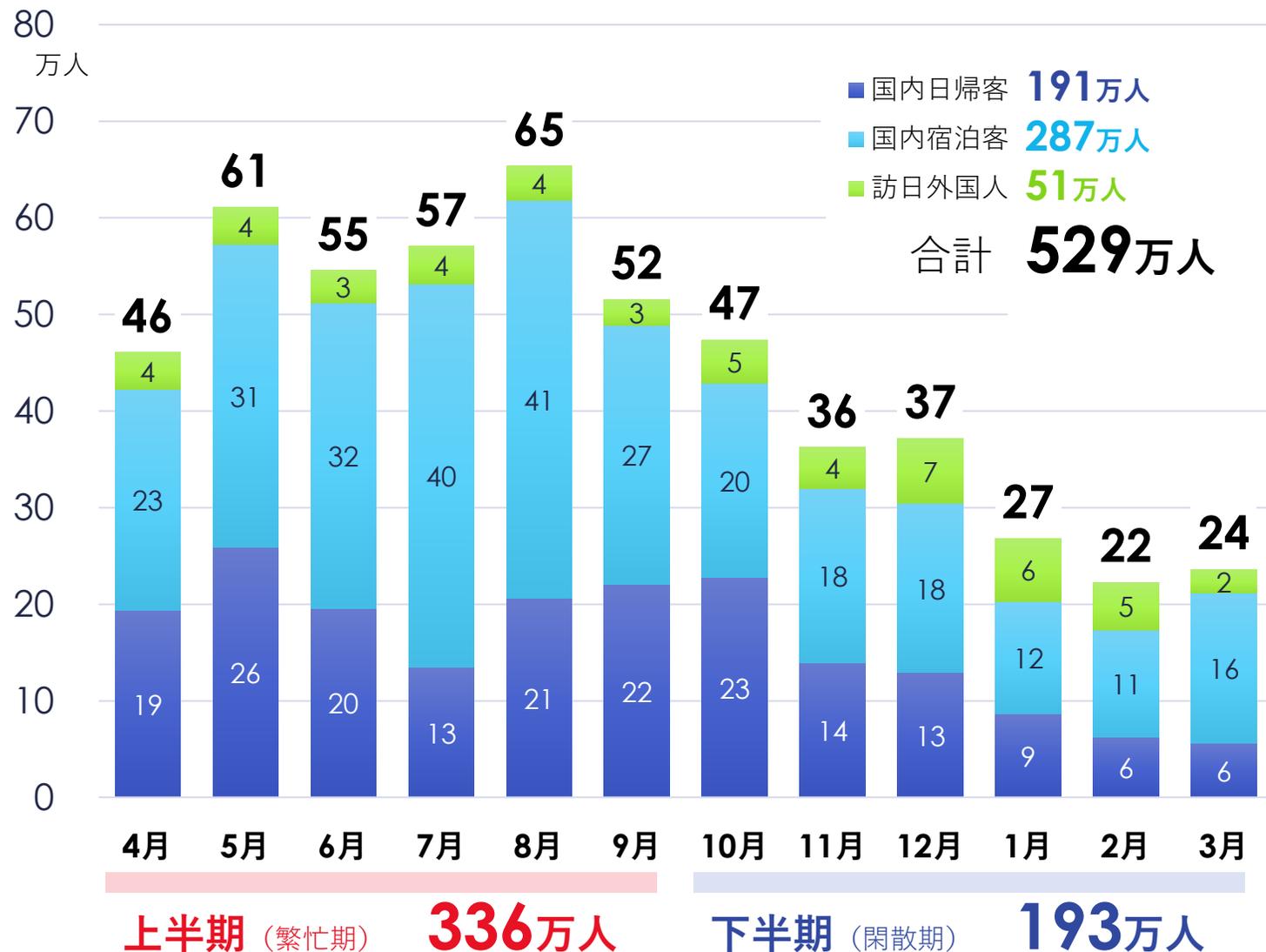
×

×

観光入込客数の考え方

- ① 質の高い観光により観光消費額を向上させる
- ② 観光の繁閑差を是正する
- ③ 函館観光を盛り上げる人を増やす

基準年：2017～2019年度の函館市の入込客数の平均



平準化指数

繁忙期（入込の多い半期）の入込客数を1.00として、閑散期（入込の少ない半期）にどれだけ入込があるか

= 1.00に近いほど平準化されている

函館市の場合

$$193\text{万人} \div 336\text{万人} = 0.58$$

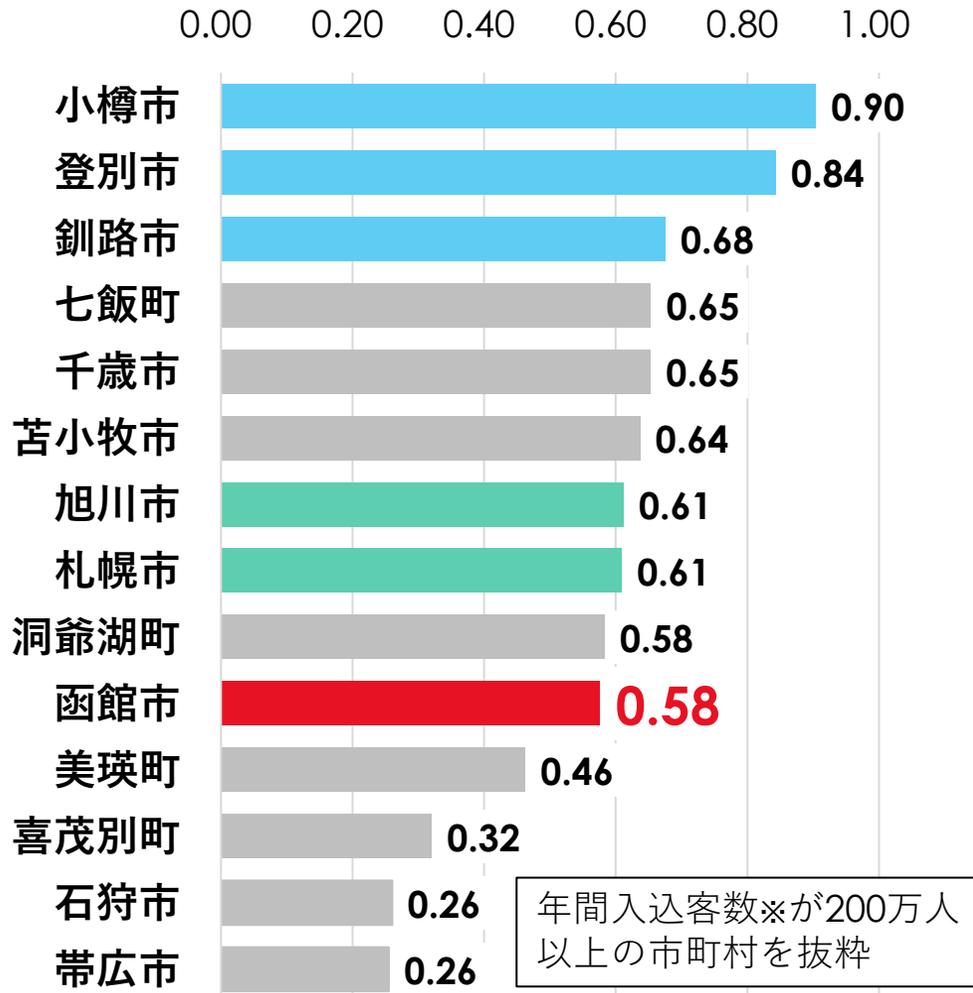
参考 「平準化指数」に類する考え方の他事例

北海道倶知安町 (一社) 倶知安観光協会
函館と上半期・下半期の繁閑が逆ではあるものの、「ピークシーズンのキャパシティは上限に近い」「繁閑差が大きいことで雇用等に悪影響がある」という課題認識は函館市と同様。「繁閑差率」として「ウィンター(11~4月)」÷「グリーン(5~10月)」の比率を改善=1に近づけることを目標値に定めている。

異業種をみると、建設業界では国土交通省が公共工事の受注について「平準化率」を定め、業務の平準化を推し進めている。

主要観光地の平準化指数比較

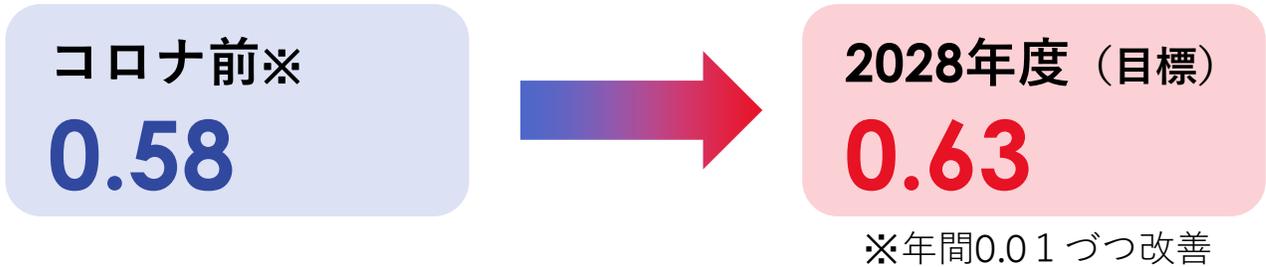
←繁忙期に入込が集中 夏冬の入込が均等→



道内
 函館市の平準化指数 **0.58** **51位** / **179**市町村

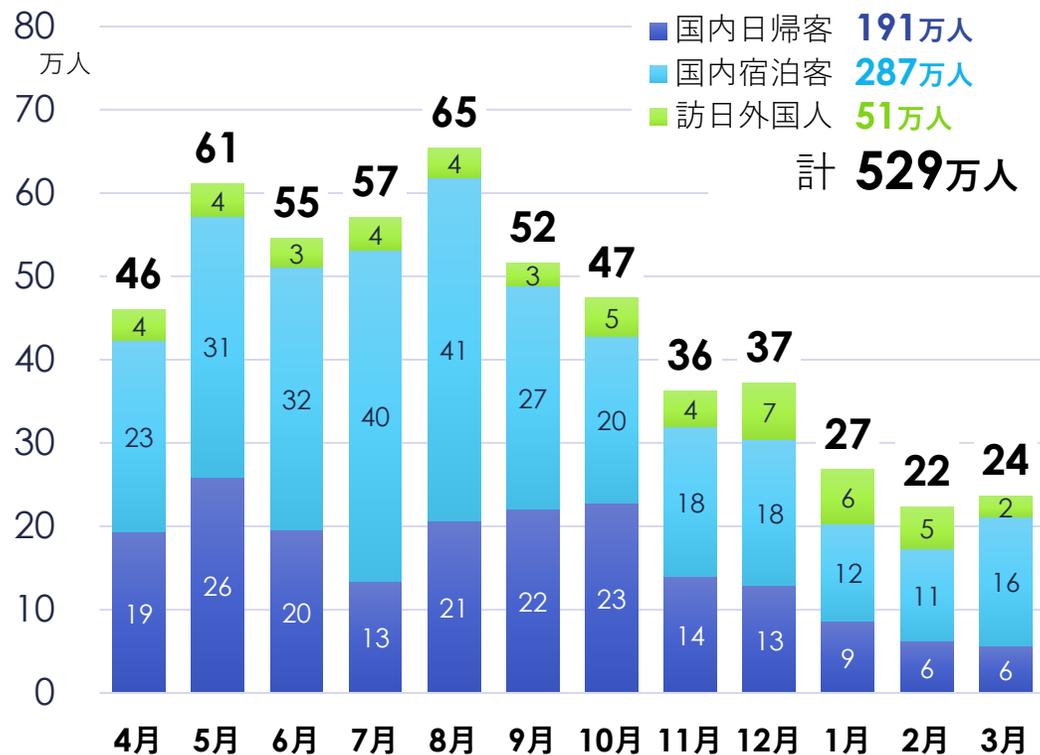
全市町村で比較すると中の上程度だが、
小樽市 (0.90)、**登別市 (0.84)**、**釧路市 (0.68)**、**旭川市 (0.61)**、**札幌市 (0.61)** など、観光を取り巻く条件に近い道内主要都市と比較して決して高くない。

現実的な達成目標として、**繁忙期の入込を維持していることを前提としつつ、札幌市や旭川市を上回る水準を目指す。**



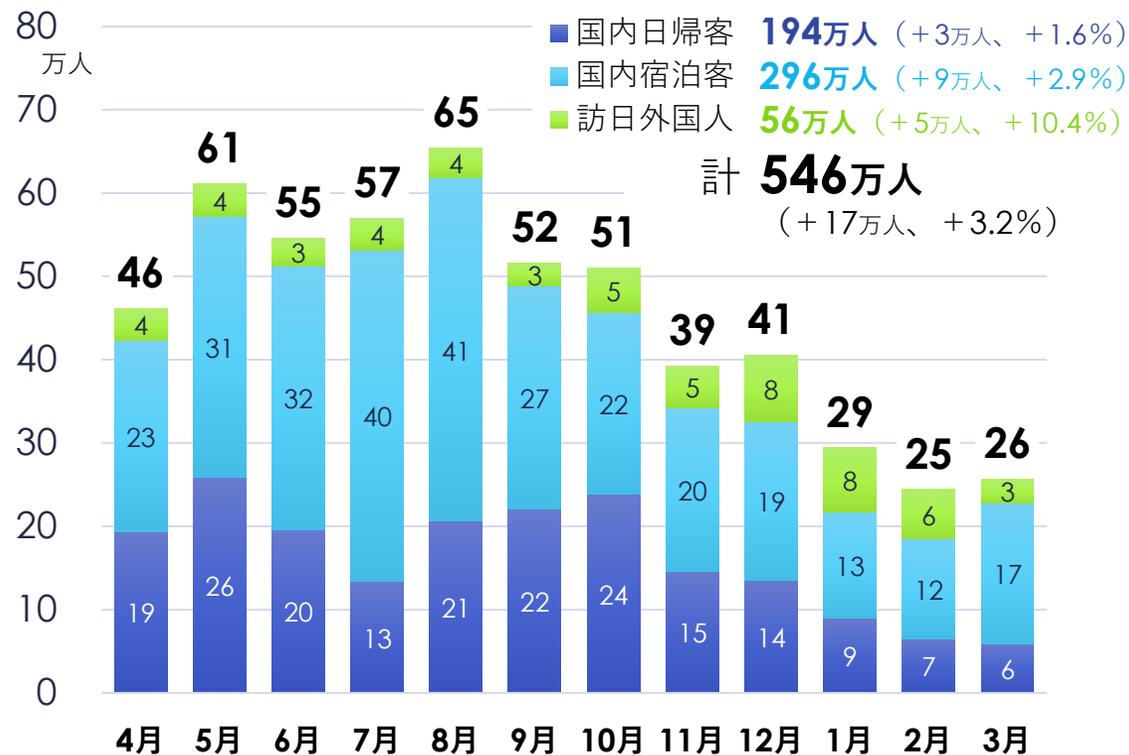
※ 北海道観光入込客数調査報告書による2017～2019年度の入込客数の平均。

コロナ前※



上半期 **336万人** 下半期 **193万人**
平準化指数 **0.58**

2028年度（目標）



上半期 **336万人** 下半期 **210万人**
平準化指数 **0.63** (+17万人、+8.7%)

上半期の入込はコロナ前水準を維持
下半期の入込を増やすことで、観光入込の平準化を進める

※ 北海道観光入込客数調査報告書による2017～2019年度の入込客数の平均。

	下半期の入込客数	通年の入込客数	平準化指数
基準値 2017年～2019年の平均	193 万人	529 万人	0.58
目標値設定 平準化指数を5年で 0.05 pts改善させる	210 万人 (+17万人、 <u>+8.7%</u>)	546 万人 (+17万人、 <u>+3.2%</u>)	0.63 (+0.05pts)
パターン① 平準化指数を 0.61 （旭川市並）にする	204 万人 (+11万人、 <u>+5.7%</u>)	540 万人 (+11万人、 <u>+2.1%</u>)	0.61 (+0.03pts)
パターン② 平準化指数を 0.68 （釧路市並）にする	227 万人 (+34万人、 <u>+17.2%</u>)	562 万人 (+34万人、 <u>+6.8%</u>)	0.68 (+0.10pts)
参考 2022年 コロナウイルスの影響を受けている	194 万人	455 万人	0.74

観光消費額の考え方

- ① 質の高い観光により観光消費額を向上させる
- ② 観光の繁閑差を是正する
- ③ 函館観光を盛り上げる人を増やす

- 算出した入込客数を基に、**観光消費額（一人当たり）**をどこまで上昇させると、**目標である289.8億円**を達成できるかを算出



方針 3 の目標値の考え方

- ① 質の高い観光により観光消費額を向上させる
- ② 観光の繁閑差を是正する
- ③ 函館観光を盛り上げる人を増やす

【函館観光の盛り上げに参加する人を増やす】

- 函館観光の活性化には、市民の理解や函館観光への応援・貢献が必要であり、函館観光にかかわる中で函館に対する誇りや、函館愛が醸成されることは、函館観光にも良い影響がある。
- 例えば、市内で行われているボランティアガイドや函館検定などへの参加をはじめ、地域循環の中で示されている、市民が観光客に親切に接するといったおもてなしや、情報発信、観光産業への就職なども、函館観光への応援、貢献といえます。
- 市民だけではなく観光客の満足度の向上を図り、函館を応援、推奨する人を増やすことも今後の観光誘客には重要であるといえます。

目標値の考え方

市民の中には、例えば・・・

- ①様々な観光関連の取り組みに参加している。
- ②なかなか見えにくい取り組み（親切にする、情報発信するなど。）をしている。
- ③活動はしていないが、函館観光を応援したいと思っている。
- ④特に応援してない。

など様々なスタンスの方がおり、目に見えない部分が多いと想定されるため、**アンケート調査で意識を調査し、計画初年度において基礎となる数値を得る** ことします。

同様に、**観光客についてもアンケート調査により、函館の推奨度を調査**する。

なお、**具体的な数値目標については、初年度の調査結果を踏まえ検討**します。